



三笠だより

舞鶴市立三笠小学校
学校だより 7月号
令和8年6月30日発行

ミカサミット

ネーミングの力は大きいものです。同じ活動でも、名前一つでわくわく感が生まれます。本校では、総合的な学習の時間を「ミカサミット」と名付けました。この名前には、子どもも教師も当事者意識をもって課題解決に取り組んでいきたいという思いを込めています。今年度は、探究的な学びの充実を図り、生涯にわたり豊かに学び続けるとともに、舞鶴を大好きな子どもを育てたいと、教職員一同試行錯誤しながら取り組んでいるところです。

さて、さっそく5年生は「舞鶴未来会議」を立ち上げました。「自分たちが住んでいる舞鶴の魅力とは何だろう」「舞鶴にはどのような課題があるのだろう」。そんな問いからスタートし、地域の方に未来の舞鶴についてお話を伺ったり、実際にまちを歩いたりしながら、自分たちにできることを考えています。地域の方々のお話に共通していたのは、「まちを元気にしたい」という熱い思いでした。それを受けて、子どもたちの中にも「自分に何かできることはないか」という意識が芽生えています。



～どんな舞鶴だったら
みんなが住みたくなるかな～

「舞鶴のかまぼこを使ったお土産を作れないかな」「ユニバーサルデザインを取り入れたまちになったらいいな」など、実現の可否はさておき、想像は大きく膨らんでいます。子どもたちなりに未来の舞鶴を思い描くことは、大変意義のある学びです。未来社会の担い手となる子どもたちの学びが、今後さらに広がり、深まっていくことが楽しみです。

また、3年生は毎年、舞鶴支援学校行永分校の皆さんとの交流を、総合的な学習の時間に位置付けて取り組んでいます。この交流は、昭和25年に本校に整肢学級が設置されたことに由来するご縁によるものです。先日、今年度第1回目の交流を行いました。子どもたちは、みんなが楽しめるような遊びを考え、ダンスをしたり、シール交換をしながら自己紹介をしたりと、笑顔あふれる時間を過ごしました。振り返りの中では、「パセロリサラダダンスをしていると、みんなと一緒ににこにこの笑顔で元気に踊れた」「次はみんなでちぎり絵をして、一つの作品を作りたい」といった声が聞かれました。誰一人取り残されることなく、すべての人が楽しめるためにはどうすればよいかを考える、貴重な機会となりました。交流を重ねる中で、子どもたちが社会の一員として、「誰もが暮らしやすいまちづくり」について考えを深めていくことを期待しています。

「いかに自分事としてとらえられるか」―これは、ミカサミットにおいて大切にしている視点です。

後になりましたが、地域の小阪金属様より、校門の安全ミラーを寄贈していただきました。卒業後も母校を思い続けてくださることに、心より感謝申し上げます。卒業しても「懐かしい」「また関わりたい」と思える学校であり続けたいと思っています。

季節は巡り、三笠山のあじさいが咲き始めました。畑の野菜は青々と育ち、植物の命の力強さを感じます。1年生が育てているアサガオも花を咲かせ始めました。日々のお世話の中で、子どもたちは多くの気づきを得ています。つるが伸びてきたアサガオを見て「ジャックと豆の木みたい。」とつぶやいている子もいました。子どもならではの、豊かな発想ですね。収穫した野菜でパーティーを計画している学級もあり、学びは生活とつながっています。

いよいよ一学期も終盤に入りました。夏休みに向けて、充実した締めくくりができますよう、7月も皆様のご支援とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

校長 高峰 真実 教職員一同